

平成20年度 校区外部評価の結果(最終まとめ)について

- 校区外部評価委員による評価結果と学校による内部評価結果 -

評価期間 8月1日～7月31日

学校番号

71

学校名

小中一貫校 日野学園

< 記入の仕方 >

『第1回外部評価に関する協議会』へは、内部評価(自己評価/網掛け)の結果を報告します。

「今後に向けての考え」の欄は、校区外部評価結果(中間まとめ)が示された後に、学校の内部評定と比較・検討し、学校の受け止め方を明確にした上で、学校の考えをお書きください。今回は中間まとめですので、特記事項のみで結構です。

各校で、特に重点を置いた設問などについて、印を付けるなどの工夫をしてください。

評価項目 その1【基礎学力の定着に関して】

校区外部評価の設問	評定 外部	評定について 特記事項のみ記入してください	評定 内部	今後に向けての考え 特記事項のみ記入してください
(教師の姿) 児童・生徒に学習の準備をさせている。 (学習への心構え)	B		B (B)	基本的な学習習慣・学習規律の確実な確立を、今後も学園生活のしおりに基づいた指導により継続する。特に「チャイム着席」強化週間等により、児童生徒の意識付けと行動改善につながった。
(教師の姿) 児童・生徒に指示や説明をしっかりと聞かせている。 (学習への意欲・態度)	B		B (B)	ビジュアル化やキーワードを強調して説明するなど、児童生徒が理解しやすいような工夫を今後も継続し、聞く力を育てる。
(教師の姿) 児童・生徒に正しい姿勢で学習させている。 (学習規律)	B		B (B)	学習用具の準備も含め、個々の児童生徒自らが、自分の姿勢・態度に注意を払い、正していけるよう、家庭の協力も得ながら指導を継続する。
(教師の姿) 児童・生徒を学習に参加させる指示や質問をしている。 (学習活動)	B		B (B)	児童生徒主体の授業を目指して学習活動の工夫を重ねている。校内研究・研究授業を通して、今後も継続して取り組んでいく。
(教師の姿) 板書の書き方が丁寧である。 (授業の展開)	B		B (B)	児童生徒の思考の整理を助ける板書の工夫を重ねている。成果を全教職員で共有しながら今後も取り組んでいく。
(教師の姿) 児童・生徒の意見を正しく聞き入れ、質問にはわかりやすく答えている。 (児童・生徒への対応)	B		B (B)	児童生徒との丁寧なやり取り・かかわりを心がけており、適切に行われている。これらを基本にさらに信頼関係を深めたい。
(教師の姿) 机間を回り、個々の児童・生徒の学習の様子を確認している。 (個別対応)	B		B (B)	実態に応じた個別の支援・指導は日常的に行われている。児童生徒の変容に応じて対応していく。
(教師の姿) 授業に工夫が見られる。 (授業の工夫)	B		B (B)	板書やワークシートの活用などで工夫をするようにする。
(教師の姿) ノート等に正しく丁寧に文字や数字を書かせている。 (基本的な指導)	B		B (B)	学年に応じた使用ノートの工夫や個別の対応など、適時適切な指導を継続する。

(教師の姿) 児童・生徒の顔をしっかりと見ながら授業を進めている。 (状況確認)	B		B (B)	児童生徒の様子をしっかりと確認し、状況に応じた指導・対応をしながら進めている。
(教師の姿) 授業のねらいが明確である。 (指導)	B		B (B)	単元全体の学習の目標を明確にするようにしている。 黒板に、その授業のめあて(ねらい)を明示するようにしている。
(教師の姿) 一人一人の児童・生徒の学習状況を確認している。 (評価)	B		B (B)	授業中の発言やノートなどから常に一人ひとりの状況を確認している。また定期考査や単元ごとの確認テストの結果も併せて、指導に役立てていく。
(教師の姿) 家庭学習を習慣化させている。 (家庭との連携)	B		B (B)	日常の授業及び長期休業期間の両方で、計画的に宿題を出し、点検を行って補足的な学習につなげている。
(授業の様子) 話の聞き方や発表の仕方など、学習ルールが守られている。 (学習のきまり)	B		B (B)	学年段階に応じて決めた学習のルールに従って授業を行っている。今後も継続して実践し、児童生徒の基本的な学習規律の確立を図る。
(授業の様子) 児童・生徒同士で考えたり話し合ったりする活動がある。 (集団での学習活動)	B		B (B)	授業の場面に応じて、適宜、児童・生徒同士で考えたり話し合ったりする活動を取り入れている。さらに相互に学び合う学習活動の工夫を推進する。
(授業の様子) 児童・生徒が課題に一所懸命に取り組んでいる。 (学習に対する児童・生徒の意欲)	B		B (B)	児童・生徒によって取り組み方に差があるものの、全体的には積極的な姿勢が見られる。今後も継続して指導していく。
(授業の様子) 全体的に活気がある。 (学ぶ意欲にあふれた学級づくり)	A	教職員の頑張る姿がにじみ出ている。	B (B)	日常の学級活動だけでなく、学校行事や学級便りを通して、学級での集団活動の意義をさらに感じさせるよう、指導を積み重ねていく。
(学校の様子) 学力の定着・向上に対して、小学校と中学校の先生が定期的に集まり協議している。 (小中一貫教育の推進)	B		B (B)	校務分掌上に「一貫教育推進部」を設置し、担当主幹教諭を置くなど、学校としての体制づくりをしている。今後も継続して取り組んでいく。

評価項目 その2【社会性・人間性の育成に関して】

(児童・生徒の姿) 児童・生徒は、誰に対しても礼儀正しくあいさつ(会釈も含む)している。 (望ましいあいさつ・返事、基本的習慣)	C	あいさつ指導の徹底が求められる。	B (B)	顔見知りへの挨拶に比較して、初対面の方への挨拶が少ない点を踏まえ、校内では誰にでも挨拶ができるよう引き続き指導していく。
(児童・生徒の姿) 児童・生徒は、学校のきまりを守って活動している。 (学校のきまり・校則の理解と励行)	B		B (B)	児童生徒によって取り組み方に差があるものの、全体的には積極的な姿勢が見られる。よいものはほめ、よくないところは注意して、今後も継続して取り組んでいく。
(児童・生徒の姿) 児童・生徒同士は、適切な言葉遣いをしている。 (学校での言語環境)	B		B (B)	日々の生活指導や各教科、市民科学習などを通して、継続して取り組んでいく。
(児童・生徒の姿) 児童・生徒は基本的な生活習慣が身についている。 (家庭生活)	B		B (B)	児童生徒によって差があるものの、全体的にはほぼ身につけている。家庭の協力を得ながら、集団の一員として自立的な行動がとれる児童生徒の育成を目指す。
(児童・生徒の姿) 児童・生徒は忘れ物をしない。 (基本的な生活習慣)	B		B (B)	児童生徒によって、その意識と実態に差がある。家庭とも連携しながら、個に応じた指導を継続していく。

(教職員の姿) 服装や身だしなみに気を付けている。 (社会人としての基本)	B		B (B)	個々の教員によって意識に差がある。場面にふさわしい服装・身だしなみに気を配るよう、管理職から指導していく。
(教職員の姿) 児童・生徒に対して、場に応じた適切な言葉遣いをしている。 (模範であることの自覚)	B		B (C)	個々の教員によって取り組み方に差がある。全体的には積極的に改善していこうという姿勢が見られる。現状に満足することなく、今後も継続して取り組んでいく。
(教職員の姿) 保護者・地域の方々に対して、礼儀正しく接している。 (他者に対する接し方)	B		B (B)	全体的に、やや消極的な姿勢が見られる。顔見知りになる場面設定を増やすなど、今後も継続して取り組んでいく。
(教職員の姿) 児童・生徒の模範となる態度を心がけている。 (大人モデルとしての意識と自覚)	B		B (B)	個々の教員によって取り組み方に差があるものの、全体的には積極的に改善していこうという姿勢が見られる。現状に満足することなく、今後も継続して取り組んでいく。
(教職員の姿) 児童・生徒の気になる言動や態度に対してその場で指導している。 (生活指導)	B		B (B)	日々の生活指導や各教科、市民科学習などを通して、継続して指導し、相手の立場に立った思いやりのある言動・態度がとれる児童生徒の育成に努める。
(教職員の姿) 児童・生徒の生活指導上の問題について、小学校と中学校で話し合いをしている。 (小中一貫教育生活指導の姿勢)	C	小学校と中学校のよりいっそうの連携が望まれる。	B (B)	年度初めに全教職員で全学年の児童生徒の共通理解をしている。さらに、学校全体やブロックごとの会議でも取り上げ、学年の進行に応じて決めた生活のきまりが達成できるようにする。
(教職員と児童・生徒の関係) 児童・生徒は教職員に対して、年長者に対する言葉かけや態度で接している。 (望ましい人間関係)	B		B (B)	日々の学校生活や各教科、市民科学習などを通して、継続して指導に取り組んでいく。
(教職員と児童・生徒の関係) 児童・生徒は、教職員の注意や指示を素直に聞き入れている。 (毅然とした態度と信頼)	B		B (B)	個々の教員によって取り組み方に差があるものの、全体的には問題なく正常な人間関係が構築されている。現状に満足することなく、今後も継続して取り組んでいく。
(教職員と児童・生徒の関係) 教職員は、児童・生徒一人一人へ自然に話しかけている。 (児童・生徒との日々のコミュニケーション)	B		A (B)	教職員は、児童生徒と積極的にコミュニケーションをとっている。今後も継続して取り組んでいく。
(地域の方と児童・生徒の関係) 生徒は、地域の行事に参加している。 (地域行事への参加意識活動状況)	B		B (B)	地域の行事に児童生徒会が参加をしたり、祭礼に低学年の児童が参加したりするなど、徐々に参加の意識が高まっている。さらに推進する。

評価項目 その3【保護者・地域との連携に関して】

(教職員の姿) <保護者向け> 学級における学習や生活の様子を伝えている。 (情報提供)	B		A (B)	学年便りや学級便りを活用して様子を伝えており、児童生徒の実態や課題の共有化を図っている。
(教職員の姿) <保護者向け> 保護者に誠実な対応をしている。 (説明責任)	B		A (B)	問い合わせや要望があったときには、基本的に面談等により丁寧に対応できている。今後も継続し、信頼関係の構築に努める。
(教職員の姿) <地域向け> 地域で会ったときに、あいさつをしている。 (礼儀)	C	教職員が、より積極的にあいさつする姿を期待する。	B (B)	個々の教員によって取り組み方に差があるものの、全体的にはやや消極的な姿勢が見られる。顔見知りになる場面設定を増やすなど、今後も継続して取り組んでいく。

(教職員の姿) <地域向け> 町会の行事に、教職員が参加や協力をしている。 (地域と積極的に連携する姿勢)	B		B (B)	地域の祭礼の際、パトロールを実施し、交代で全教員が参加するようにしている。継続し、より協力体制を強める。
(教育活動への参加) <保護者向け> 学校は保護者が教育活動に参加しやすいように工夫している。 (保護者の視点からの学校公開)	B		B (A)	本年度から実施した土曜登校日に、学校公開や保護者会を実施し、参加しやすいように工夫している。
(教育活動への参加) <地域向け> 学校は、地域の環境や人材を活用する学習計画を立てている。 (地域環境・人材の活用)	B		B (B)	「地域の人に学ぶ授業」計画を中心に活用している。さらに協力をいただく方向で実践を継続中である。
(学校からの発信) <保護者向け> 最新の学校情報を発信している。 (保護者の視線に立った情報公開)	A	保護者への情報発信が迅速になってきている。	B (A)	学校便り・HPを活用し、また保護者会・PTA運営委員会の場において、常に学校の情報を伝える努力をしている。より協力体制を強められるよう努力する。
(学校からの発信) <保護者向け> 保護者に成績の付け方についてわかりやすく説明している。 (評価に対する説明責任)	B		B (A)	学期末の保護者会で、担当より丁寧に説明している。分かりやすい説明を今後も工夫していく。
(学校からの発信) <保護者向け> 防災や不審者の情報を速やかに発信している。 (防災・安全に関しての情報発信)	B		A (A)	これまでの文書に加え、保護者メールを活用して情報を発信している。今後も文書と併用して活用していく。
(学校からの発信) <地域向け> 学校だより等が地域の掲示板に貼られている。 (地域への情報発信)	A	地域への情報発信が充実している。	B (B)	地域については掲示場所がないので、学校入口の掲示板を活用している。
(学校からの発信) <地域向け> 管理職は、町会に積極的に参加し、交流を図ろうとしている。 (地域連携に対する管理職の姿勢)	A	地域への情報発信が充実している。	A (A)	地域の祭礼・行事には、必ず参加し、交流・連携を深めている。今後も交流・連携を深めるため、一層努力する。

評価項目 その4 【環境・美化に関して】

(学校の状況) 児童・生徒が落ち着いた生活を過ごしている。 (生活指導)	B		B (A)	ほとんどの児童生徒は落ち着いて学校生活を送っている。一部課題のある児童生徒もおり、家庭と連絡を取り合い、相互の協力の下、指導している。
(学校の状況) 校内の学習環境が整えられている。 (清掃・美化)	B		B (B)	相互に学ぶ場としての教室・フロア的环境整備について、それぞれの教員が工夫をしているところであるが、今後ブロックごとに統一すべきところなど、学校全体としての整備が必要である。
(学校の状況) 児童・生徒による校内清掃が行き届いている。 (清掃指導)	B		B (B)	教員の指導により、児童生徒はそれぞれの分担の清掃場所を丁寧に清掃しているが、汚れが目につく箇所があるのも事実である。継続的な指導が必要である。
(学校の状況) 来校者に学校の活動や児童・生徒の活動がわかる校内掲示がある。 (学習環境を整える校内掲示)	B		B (B)	校舎の設計上、掲示の難しさがあるが、さまざまな工夫を凝らして掲示をしている。児童生徒の作品の掲示など、さらに工夫を継続中である。
(学校の状況) 破損箇所に対する対策が施されている。 (安全管理体制)	B		B (A)	毎月1回の校内安全点検を中心に、適切に対応している。児童生徒への指導とともに、より迅速な対応を目指す。

評価項目 その5【独自の特色ある教育活動に関して】

〔小中一貫〕 1年生から9年生までの学校体制を効果的に利用した学習指導、生活指導、学校運営が行われている。	A	施設一体型小中一貫校としての独自性が表れ始めている。	B (B)	異学年のかかわりを取り入れた教科学習など、施設一体型の一貫校の特色を生かした取り組みが工夫されている。継続的な取り組みを実践していく。
〔研究〕 市民科、小英語、ステップアップ学習などの研究を、一貫校として成果を出すために進めている。	B		B (B)	昨年度より校内研究において、全教科の研究をグループごとに行っている。市民科においては、別途、全教員で研究に取り組んでいる。指導法の改善を目指し、今後も継続する。
〔運営組織〕 小中の教職員が、日常の教育活動や行事などにおいて、新しい9年間の学校として機能的に活動している	B		B (B)	より機能的な活動を目指し、本年度、運営組織の見直しを行い、再編成した。成果をみとり、今後も状況に応じた改善をする。
〔小中一貫〕 管理職・教職員全体が、小中一貫校としての自覚を持っている。	B		B (A)	施設一体型小中一貫校、日野学園の目指すべき姿を全教職員が共有し、一層努力する。
〔小中一貫〕 教職員は、1学年から9学年までの全体を見通した指導を行っている。	B		B (B)	各学年の活動であっても9年間の発達を視野に入れた指導を心がけている。成果を確認しながら、今後も継続する。
〔小中一貫〕 小学校の教員と中学校の教員の交流が行われている。	C	教員間のよりいっそうの交流が望まれる。	B (A)	児童生徒の交流を図るために教員間の打ち合わせ等も密に行っており、交流が図られているが、分掌内での交流など一層努力を続ける。
〔小中一貫〕 小学生と中学生の交流が行われている。	B		B (A)	「B&S」や給食異学年交流をはじめ、教科学習においても異学年が連携して学習を進めるなど、交流は日常化している。
〔 〕 1 - 4ブロック、5 - 7ブロック、8・9ブロックの活動の成果が現れている。	B		B (B)	ブロックごとに発達段階に応じた活動を工夫し、実施している。相互に成果をみとり、常に改善をしていく必要がある。

<その他参考になる事項>